



今年のCTF 松阪の活動について

昨年末からこの1年間、実にいろいろなことがありました。

スマトラ島沖地震・津波、アメリカのハリケーン襲来などの自然災害をはじめとして、国内では、JR 福知山線の列車事故、凶悪事件の発生や官民いたるところでの不祥事等々、毎日のように報道される暗いニュースに目や耳を覆いたくなりました。が一方、愛知万国博覧会の開催や紀宮さまのご結婚という明るいニュースもあった一年でしたが、皆様のこの一年はどんな一年でしたか？

1年締めくくりの12月、NPO 法人CTF 松阪のこの1年間の活動実績をまとめてみました。

(下表は、2004年12月から2005年11月までの1年間の実績です)

障害者向けパソコン講座開催 5コース20日間 受講者延25名	障害者団体等 IT 支援 4回
障害者個人向けパソコン講座開催 33回 受講者延123名	IT 関連事業受託 (ホームページ編集、データ入力、写真撮影) 6件
障害者宅訪問 IT サポート 16回	会報 (CTF 通信) 発行 12回



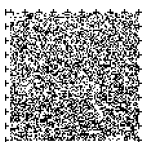
“油断大敵”

数週間前の中日新聞に、「柿が赤くなると、お医者さまは青くなる」と、柿の効用が載っていました。「風邪にはビタミンC」と今や常識です。

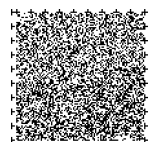
大き目の柿を一個食べるだけで、一日の所要量はタップリ摂れるそうです。小生その効用とやらに、あやかろうと甘柿二個も食べましたが…… その二日後に 鼻水ダラダラ 人間誰でも年に数回は風邪を、ひくそうですよ！ 小生その、何回目？に当たったんでしょ。「風邪は万病のもと」といわれるくらいですから、ご用心 ご用心 追伸

細胞の老化を防ぐ「カロテン」も豊富です、最近物忘れのひどいと、自覚の諸氏、又年末の二日酔いに一日2個は、如何ですか？

(I・S)



今月号は文字数が多いので、1ページと2ページ、4ページにSPコードをそれぞれ2個ずつ付けてあります。1ページと2ページ、4ページでは、先に左下のSPコードを、次に右下のSPコードを読んでください。





パケット通信（パケットってなに？）

携帯電話をお使いの方はよく「先月のパケ代が高くて～」なんて使いますが、その携帯電話のパケットと同じです。通信データを小さなデータの塊に分けて送受信するのがパケット通信の基本で、そのデータの塊一つ一つのことをパケット(packet)といいます。

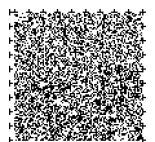
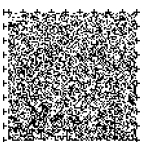
インターネットやイーサネットなど、TCP/IPによるネットワーク通信では、1本の線を複数のホストで共有しており、データをパケットに分けて通信を行なっています。実際のパケットはヘッダー部とデータ部から出来ており、ヘッダー部には送信元と送り先、データの大きさなどの情報が書かれており、それを中継する配送所(サーバー)ではこのヘッダー情報を参照して自ネット宛のデータでなければ次の配送所に送ります。このようにヘッダー部分を見て次々とパケツリレーされて目的の宛先に届けられるのです。

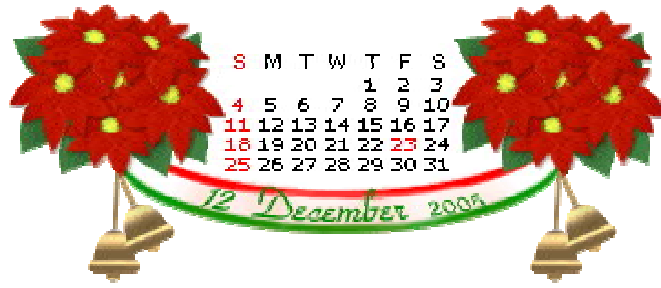
またヘッダーには「配送が終了したらどうやって発信元に知らせるか」、「配送中のデータを壊したらどうするか」、「このデータはいつまでに届けなければならないか」といった情報も書きこまれており、その情報とあらかじめ決められた約束(プロトコル)によって処理されます。

例えば電子メールを送る場合、to に宛先、from に送信元、subject に表題を書きますがこの3行がメール(アプリケーション層)のヘッダーでそれ以外がデータ(本文)となります。これが TCP(トランスポート層)や IP(ネットワーク層)に送られそれぞれに対応したヘッダーが付けられます。このとき各プロトコルでは元のヘッダーとデータをひとまとめにしてデータとして扱い(カプセル化)、それに自分用のヘッダーを付け加えます。一方データを受け取る側では、自分の階層のヘッダーを見て種々の確認作業を行い、問題が無ければカプセルを開いて上層へ届けます。

注 TCPの働き：TCPはアプリケーション層から渡された大きなデータの塊を配送に適したサイズのパケット(小包)に分割し、それに順番を付けて誤配や遅配がないかを管理します。受け手側では、送信元のTCPが割り振った順番通りにデータを組み立ててアプリケーション層のプロトコルに渡します。このとき、パケットがきちんと届いたかどうかを送信元に通知します。パケットが途中で壊れたり紛失したりしてうまく届かなかった場合は再度パケットを送ってくれるよう指示します。このようにTCPは相手にデータがきちんと届くことを可能な限り保証します。これに対してUDPは、これらの確認をせず送りっぱなしです。手順がTCPより単純なため高速に通信が行なえます。こちらは、音声や動画などのストリーミング送信にむいています。多少データが飛んでも内容は伝わるからです。

つづく





活動報告

活動予定

【11月】

障害者対象個人向けパソコン講座
 (1日、8日、15日、22日)

障害者宅訪問 IT サポート
 (2日、7日)

【12月】

障害者対象個人向けパソコン講座
 6日、13日、20日、27日
 各9:30~11:30
 松阪市障害者福祉センターにて



CTF 会員様宅のクリスマス

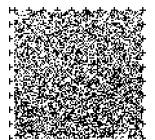
松阪市社会福祉協議会様からの助成金で機器を充実

このほど社会福祉法人松阪市社会福祉協議会様から、平成17年度ボランティアグループに対する助成金が交付されました。

CTF 松阪では、この助成金でネットワーク構築用機器や障害者対応入力機器などを購入備え付けました。これにより、主催パソコン講座の充実と就労環境の整備がはかられました。

大雪・冬至

12月7日は大雪、22日は冬至です。
 これらは二十四節気の名前で、大雪は、山野が雪に覆われ、本格的な冬が到来する時期と言われています。
 冬至は、冬の間接点で、北半球では昼が最も短く夜が最も長い1日です。



くまさんのひとりごと(2)

CTF 会員 No.00**

「さん、番テーブルへどうぞ」

資料に目を通すのに時間がかかっていたので、会場でのマイクの呼び出しが、どんどんと聞こえてきた。
呼び出しがかかるということは、すでに3人目の面接が、始まっているということである。

僕は、ますますあせりながら「まず、この在宅勤務可の会社の面接を受けてみよう」と思い各テーブルに付けられている番号を探した。

資料に書かれている見取り図と照らし合わせて目指すテーブル番号にたどり着いた。

2人の面接官は、先客の面接中である。

僕は、待っていればいいのかなどと思い、しばらく待っていたのであるが、次々にマイクで次の人が呼ばれる。
スタッフに聞くとテーブルにおいてある紙に名前を書いておくとの事である。

面接中にそのテーブルの上に置かれている紙に、勝手に名前を書いていいものやら判らないので、しばし様子を見守ったのである。

これも弱視者ゆえ、書いてあることが見えにくいのでしかたがない。

とにかく、近くにいるスタッフに代筆を頼みその場を離れた。

10分位たった時、名前が呼ばれ面接官の前に座った。

職種は、パソコンを使っの事務職である。

仕事の内容については、なればどうにかできそうな感じではあるが、在宅勤務となると、本社横浜での3ヶ月の研修期間がいるとの事である。

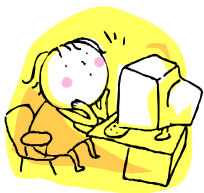
研修期間は、あって当たり前ではあるけれど、3ヶ月の横浜となると、ちょっと難しい。

事業所での勤務も一応きくことにしたが、距離的にも、時間的にも、車椅子で通うことは難しい。

総合的には、僕にはちょっと無理なようである。

という結果だったので、あきらめ気分で、1社目の面接をおえてその場を離れた。

つづく



編集後記

1年間のご愛読有難うございました
来年もご期待ください



CTF 通信第33号

2005年(平成17年)12月発行
発行者 ITを活用した障害者支援 NPO 法人

CTF 松阪

発行責任者 川 口 保 美

住 所 〒515-0081 松阪市本町 2181-1

電 話 0598-21-7268

U R L <http://www.geocities.jp/sanguudo/ctf/>

